

新市場のマーケティング ～これからの京都土産～

去年参加させていただいたこのプロジェクト科目でしたが、まさか今年自分がSAになろうとは思いませんでした。去年の反省すべき点を踏まえ、生徒により良い商品を提案してほしいという思いでサポートさせていただきました。

他の科目と違い春学期間のみで商品を形にする難しさは履修生にとっては楽しそうなイメージからは想像できなかったのではないのでしょうか。しかしグループワークで意見をぶつけ合い、互いの作りたい商品像を1つの形にしていく作業はなかなか体験できることではないし、各個人チームワークの大切さそして達成感を味わえたと思います。

最後に働くの語源は「傍にいる人を楽にする」です。この科目を通した皆さんはこのことを痛感していると思います。この科目を通して学んだチームワークの大切さをぜひ今後の活躍に活かしてください。

KYOTOの文化やおもてなしを世界に発信

今回私がSAとして参加したプロジェクトは、他のプロジェクトとは異なり半年間という短い時間での活動でした。その上、今年度からのプロジェクトということでのどのような成果が出せるのか、SAとして履修生のために何ができるのか私自身不安を抱えていました。しかし、担当講師や先生をはじめ、履修生の皆さんが積極的に話し合いを行い、活動している姿を見てその不安はなくなりました。

この活動の前半は日本の観光やインバウンド、ウエディングについて学び、後半はその知識を活かしインバウンドに向けた新たなウエディングの提案や京都の魅力をインバウンドに伝える施策を考えました。各グループ調査を行い、議論をしながら一つにまとめ上げることができたと思います。

私自身、前年度履修したプロジェクト科目で多くの経験をし、たくさんのものを得ることができました。今回参加したメンバーもこの授業で得られた経験を今後のステップの中で活かして行ってほしいです。

永遠の憧れ“絵本の世界”に出会うプロジェクト

春学期のプチイベントや幼稚園での絵本の読み聞かせ演習を踏まえ、秋学期のイベントでは、ただ絵本を読み聞かせるのではなく、体ごと絵本の世界に入り込む「体験型」のイベントに焦点を当て、企画しました。外部の大学（幼児教育科）の先生からのご意見をいただきながら、メンバー全員が絵本と真摯に向き合い、その魅力をどのように伝えられるか考え、準備を行いました。その結果、イベントは園児さんをはじめ幼稚園の先生方にも楽しんで頂き、大盛況のうちに終えることができました。

園児さんたちが一生懸命描いた絵が、実際に園庭に大きな絵本となって現れた感動を、本プロジェクトのメンバーや周りの先生、友達と共有できたことが今年度のプロジェクトの何よりの魅力ではないかと感じました。この体験は、園児さんはもちろんメンバーにとっても貴重で価値のある経験になったと思います。

留学生と創る「錦市場：京の食文化読本」制作プロジェクト

1年間同じメンバーと目標に向かって取り組むこのプロジェクト科目は、言わば修行だと思えます。見ず知らずの者同士が打ち解けることから始まり、数カ月後には成果を求められます。講義形式の授業にはないプレッシャーや負担に度肝を抜かれたことでしょう。

しかし、この苦しみこそプロジェクト科目の醍醐味だと思えます。上手くいっている時はもちろんですが、苦しい時でも前に進み続ける力、これが一年を通してメンバーそれぞれに育まれてきたと実感しています。やってよかったと思える瞬間がこれまでの苦勞を吹き飛ばしてくれます。

SAとして関わるにあたって、我慢し待つこと、を私は大切にしていました。自分の意見ではなくメンバーの意見を引き出すこと、その為に何が出来るか思い悩んだ一年でもありました。2年間で履修生とSAの異なる立場を経験できた機会に感謝しています。「どんな立場にいて、何が要求されているか」これからも自分自身に問い続けていくと思えます。

ラジオで発信 ー若者と高齢者の音楽イベント制作

今年で5回目となる本プロジェクトだが、今期の履修生は5名と少し心もとない始まりであり、最初はひとりひとりの負担が大きくなるのが懸念された。

しかし活動を進めていくにあたり、ひとりひとりが自分の役割を担った積極的な活動が行われるようになった。

また例年行われてきた、ラジオへのゲスト出演・先生が紹介して下さった施設での音楽イベント実施だけでなく、今年度は“自ら施設のアポイントメントをとる”“生放送ラジオの自主制作を行う”という初の試みを成功させたことは大きな成果である。

私自身が昨年度の履修生であったため、自分たちの活動が毎年受け継がれていることを実感できた。

履修生の皆さん、1年間お疲れさまでした。

京都の伝統織物で感動を！ 魅力発見プロジェクト

昨年は履修生として、今年はSAとしてプロジェクト科目に関わる中で感じたことは、この科目は本当に学生の主体性が問われる科目であるということです。メンバーが違うと、話し合いの進め方やプロジェクトの様子がここまで変わるのかという驚きがありました。課題を見つけそれを解決するために自ら動くこと、それをチームで行うことの難しさを感じられたことでしょう。それがこの科目の面白さであり難しさでもあると思えます。

SAとしてどれだけ履修生に対応し役割を果たせたかはわかりませんが、このような機会を与えていただけたことに感謝しています。履修生のみなさんがこの経験を活かして、さらに成長することを期待しています。

プロバスケを盛り上げよう！ ～認知向上・集客をマーケティング

私はSAとして初めてプロジェクト科目に参加しました。1年間プロジェクト科目を通して感じたのは、「社会」と密接に関わる授業だった、ということです。この授業で生徒たちは、普通の座学では決して経験することの出来ない社会の厳しさと対面していました。学生時代にそれらと対峙する経験はとても貴重で、SAの私もとても勉強になる1年間でした。このような貴重な1年が過ぎせたのも、科目運営の方と協力企業様、関わってくださった皆様のおかげだと感じています。そして共に1年間を過ごした先生と履修生に感謝したいと思います。ありがとうございました。

地域循環型コミュニティの実現

この授業は、上京区を活性化させるのが目的です。

当初は授業の形態に履修生の皆さんは戸惑っていたようです。というのも、それまでは受け身の授業が多いために、どうしても待ちの姿勢になることが多かったのが、このプロジェクト科目では自分で考え、行動し、意見を述べる事が、大半なため、この様な授業に少し戸惑っていたようです。しかし、授業を幾度か経験していくと、ゆっくりですが次第に対応していく姿が少しずつ見受けられることができるようになりました。この繰り返しが重要で自立への道筋になります。社会に出れば、この授業で行った内容が必ず参考になる時が来るので、このことをよく身に着けて、羽ばたいてもらいたいと思います。

「グルメ同志社のお店100選」 企画・発行プロジェクトについて

SA・TAとしてプロジェクト科目にかかわるのは二年目になります。前年度との大きな違いは、自分自身が経験したことのないプロジェクトであること、そして履修生の人数が多いこと。人数の多さについては、会議の進行や活動の連携の面で最後まで難しさが残ったと思います。困難が生じるたびに打開案を模索し、修正を加え、粘り強く目的の達成をめざす。加えて、作業に追われながらもかわる人々への礼儀と義理を忘れない。そんな履修生の皆さんの姿から、私自身も多くの刺激をもらいました。この一年間で自分が得たものを、今後もじっくりと育ててほしいと思います。これからのいっそうの活躍を祈っています。ありがとうございました。

学生×NGOで取り組む！ 地域～世界の課題に発言・提案しよう！

プロジェクト科目に3年間関わってきたこともあり、失敗の予感なるものを自然と感じるようになってしまった。それは、毎週授業が終了するごとに、その日の履修生の活動内容を文章化して整理している際、ふと感じるのである。

一年間、私が履修生に対して繰り返し言った1つの助言がある。それは「早め早めの企画書を」というものだ。企画書を早めに作らせる意図、それは学校側や外部関係者に説明する必要があるからだけではない。履修生に自分達の方向性、行動計画、考えなどを文章化し、一度冷静にそれらを客観視することで、失敗の予感に気づいて欲しかったからだ。

何はともあれ、履修生が「イスラム教に対する社会の認識」に問題意識を抱き、真剣に取り組んだことは素晴らしいことであり、自身も数多くのことを学ばせて頂いた。一年間、本当にお疲れ様です。この経験を胸に、皆さんが新たな場で活躍することを期待しています。